

平等にチャンス生む

岩手県奥州市前沢区まきさわの製造業千田精密工業(千田伏二夫社長)は、高エネルギー加速器研究機構(KEK、茨城県つくば市)に素粒子実験装置の部品を供給するなど、I L C誘致に向けた県内ものづくり産業の取り組みをリードしている。沿岸の大槌町にも主力工場を置く千田社長(69)に、加速器産業を誘致することへの期待や、被災地への波及効果について聞いた。

I L Cは、ものづくりに建設されれば、周辺りや建設などあらゆるにさまざまな産業が結業界にまたがる裾野の集し、長期にわたり事広い産業だ。北上山地業を持続できる体制が

整う。地域の特徴を生かした新たな産業を興すことにもつながる。

ものづくり分野では、最先端の装置を手掛けられる可能性が高い。情報を集め、対応できるよう準備を進めている。各企業が具体的にどう関われるか考え、受注に向けて輪を広げていきたい。

I L Cは膨大な部品を世界中から集めて造

千田精密工業(奥州)

千田伏二夫社長に聞く



「日本へのI L C誘致はあらゆる分野、人にとってチャンスになる」と力を込める千田伏二夫社長

る。自分たちの技術や特次第で、沿岸でも内陸でも平等にチャンスが生まれる。大勢の外国人研究者が移り住むことは、沿岸の食

地域に根ざすものではなかった。I L Cは未来に向けた国際的使命によるプロジェクト。子どもたちが学んだことを地元で生かして、世界中から若者が集まる場にもなる。

復興は、人々が地域を守りたい、そこに住み続けたいという気持ちを捨てない限り成し遂げられない。I L Cは、地域を離れず生活でき、そこで夢を持つ話題だ。ぜひ誘致が実現してほしい。